

映画・港湾・国境の街 釜山

木村 貴

●「釜山」の由来

本稿を準備するにあたり、かねてより疑問に思っていた「釜山^{プサン}」という地名の由来について調べようと釜山広域市（以下、釜山市）



釜山港からみた釜山市（提供：文芝瑛氏）



甘川洞（提供：浅田隼平氏）

ホームページを訪れてみた。同市の説明によると、一五世紀中頃までの書物には、「釜山」ではなく「富山」（発音はプサン）という表記が出てくるという。そして、「富山」と「釜山」の併記時期を経て、一五世紀の末に「釜山」に一般化された。この「釜」という表現は、山に囲まれた当時の地形

を表したようであるが、韓国全土がそうであるように、釜山市にも山が多い。

そのため、釜山市の大学の大部分が山の麓から登っていくような形で建設されている。釜山大学に留学していた筆者は、一時期大学内の寮に住んでいたが、一度外出して寮に戻るときには、正門から三〇〇四〇分かけて「登山」をして部屋に戻った。当時、友人に「なぜ、大学が山に建てられているのか」と尋ねたところ、「戦争などの災害時に避難場所としての機能を担うことができるようにだろう」とのことだった。避難場所としての機能も理由のひとつだろうが、実際に、大学キャンパスを平地に作るうとしても敷地などに余裕がないのも現状である。

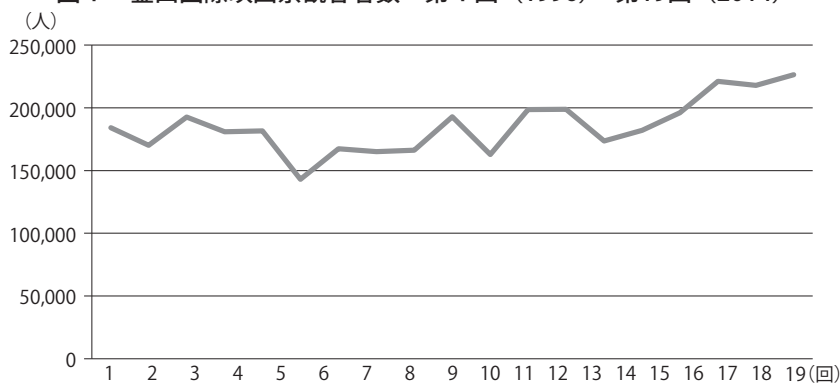
船で釜山市を訪れるとわかるが、釜山港から眺める釜山市は山に囲まれており、まさに、「釜」と呼

ぶにふさわしい様相であり、その「釜」に目を凝らすと、山腹に所狭しと古い家が立ち並んでいるのを確認することができる。ここは、甘川洞という地名で、朝鮮戦争期に避難民たちが居住したのがその始まりだといわれている。現在は、カラフルなペイントで彩られて、「文化村」として観光地のひとつになっている。

●韓国第二の都市

朝鮮半島南東部に位置する釜山市。首都ソウルに次ぐ人口を擁する釜山市は、「韓国第二の都市」である。二〇一五年二月現在、韓国の人口は五〇〇〇万人を超えているが、その五分の一の一〇〇〇万人が首都ソウルに集中し、釜山市は第二の都市として三五五万七七一六人（二〇一四年二月三一日現在）を抱えている。しかし、釜山市の人口は一九九五年を頂点に減少を続けており、二〇〇〇年以降、毎年平均して一％台の人口が減少している。その理由は経済沈滞による零細企業の域外移転と出産率の減少といわれるが、ソウル近郊の大学への進学や就職による人口移動も影響していると思われる。実際、著者が一九九六年か

図1 釜山国際映画祭観客者数 第1回(1996)～第19回(2014)



(出所) 釜山国際映画祭ホームページ資料をもとに筆者作成。

ら二〇〇三年の留学生生活時代に釜山市で知り合った友人の半数以上が、現在ソウルへと移動している。ちなみに、釜山市在住外国人は、二〇一四年一月三十一日現在、三万八三一五人である。

韓国第二の都市である釜山市だが、一時期「首都」としての機能を担ったこともある。一九五〇年

六月二五日に勃発した朝鮮戦争期、北朝鮮軍の侵攻により韓国政府の機能がソウル市から釜山市に移り、約三年間臨時首都としての役割を果たしていた。当時の様子は、東亜大学校近くの「臨時首都記念館」に残されており、李承晩大統領の執務室などをみることができる。

一時期的臨時首都としての機能を果たした釜山市であるが、「釜山市」という名称は、朝鮮戦争勃発の前年である一九四九年からである。それ以前は、日本植民地期の一九一四年三月一日の行政区画改編により釜山府となり、独立後の市制移行により一九四九年八月一日に釜山市となった。そして、一九六三年一月一日には釜山直轄市となり、一九九五年一月一日に釜山広域市へと変遷し現在に至る。このような行政単位の変化にあわせて担当する行政区域が拡大していき、現在、釜山市の面積は、七六九・八二平方キロメートルとなっている。

釜山市には、国立大学の釜山大学校をはじめ、二〇以上の大学・短大が高等教育機関として設立されているが、首都ソウルへの一極集中化は教育分野でも同様である。一九七〇年代までは、釜山大学校

はソウル大学校に次ぐ国立大学として、延世大学校や高麗大学校などのソウルの私立大学と同レベルとみられていたが、今では、ソウルにあるその他私立大学に抜かれ、ベスト一〇はすべてソウル市内の大学で占められている。

また、釜山市には、三〇年の歴史を誇る「釜山国際短編映画祭」など多様な映画祭が開催されており、幅広く映画界育成の場を提供している。行政・市民により開催される映画祭であるが、釜山市内の大学には映画学部も設置されており、行政・市民・大学が一体となって「映画の街・釜山」の発展を支えている。

韓国第二の都市である釜山市だが、一時期「首都」としての機能を担ったこともある。一九五〇年

●映画の街・釜山

一九九〇年代後半から人口が減少している釜山市だが、その反面、「映画の街」としての発展もみられる。一九九六年に創設された「釜山国際映画祭」は、二〇一四年一〇月に第一九回を迎え、七九カ国・三二二編の上映が行われ、総観客数は二二万六四七三名にのぼる。釜山国際映画祭は、韓国国内のみならず、アジアを代表する国際映画祭のひとつへと成長中である。

設立当初、釜山市街地の南浦洞(ナポドン)映画館前B I F F広場を中心に開催されていたが、その後海雲台の野外上映が追加され、二〇一一年には釜山国際映画祭専用映画館である「映画の殿堂」が登場した。一時期観客者数の減少がみられていたものの、二〇一二年以降二〇万人以上の観客者数を維持しており、二〇一一年九月の映画の殿堂

また、釜山市には、三〇年の歴史を誇る「釜山国際短編映画祭」など多様な映画祭が開催されており、幅広く映画界育成の場を提供している。行政・市民により開催される映画祭であるが、釜山市内の大学には映画学部も設置されており、行政・市民・大学が一体となって「映画の街・釜山」の発展を支えている。

●港湾都市・釜山

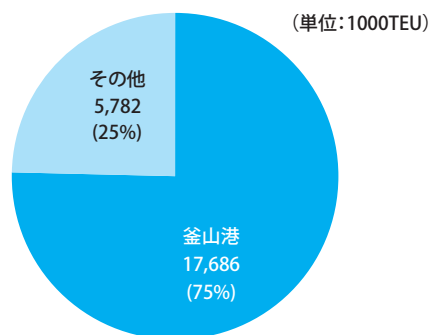
日韓両国で有名な「釜山港へ帰れ」という歌でもわかるように、釜山市は港湾都市である。釜山市は、韓国第一の国際貿易港であり、釜山港湾公社ホームページ資料によると、釜山港は、コンテナ貨物量において世界でも五番目の取扱量となっている(二〇一三年、図2、3)。

特に、釜山港では、一九九五年から二〇二〇年にかけて新港湾建設が進められており、釜山港を管理・運営する釜山港湾公社は、二〇〇四年の設立以来一一年連続で

黒字を達成している。釜山市の他産業の多くが伸び悩んでいることを考慮すると、釜山市において港湾産業の重要性が今後ますます高まると思われる。また、貨物のみならず、新国際旅客ターミナルも整備されており、現在の高速船・フェリー中心の旅客ターミナルから巨大クルーズ船の定期的な入港も進めている。

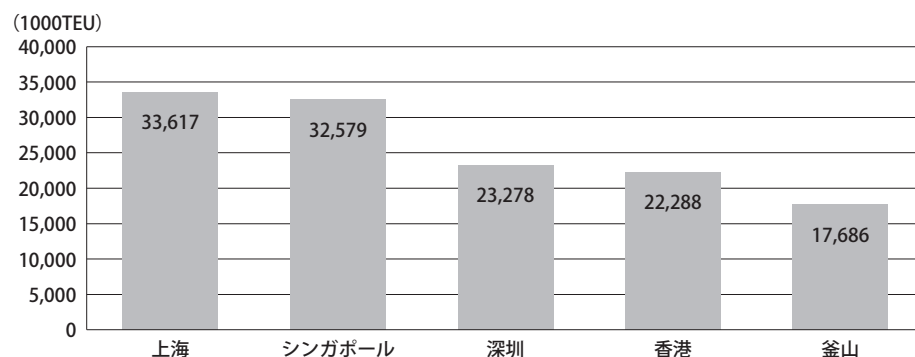
釜山市では、新港湾建設と同時に、東北アジアにおける海洋科学技術産業の中心となるよう六三四億ウォンを投資し、輸出入貨物中心の港湾都市から「グローバルマリントピア (Marine Topia)」を目指している。釜山市の地域内総生

図2 韓国における釜山港コンテナ取扱実績 (2013年)



(出所) 釜山港湾公社HP資料をもとに筆者作成。

図3 世界五大港のコンテナ取扱実績 (2013年)



(出所) 図2と同じ。

産 (GDP) における海洋産業の比率を二〇〇五年の一七・五%から二〇二〇年には二七%まで引き上げようとしている。

●日本 (福岡) との窓口

このように海に囲まれている釜

山市であるが、その先には日本、具体的には九州・福岡がみえる。釜山市と福岡市の間には、飛行機・高速船・フェリーが毎日運航されており、釜山市は、「日本との窓口」という機能も備え持っている。高速船は、約三時間で到着し、飛行機にいたっては、福岡まで約四〇分である。直線距離にして、二一五キロメートルほどである。

よって、釜山市は韓国の他の都市に比べて、日本の影響を大きく受けている。実際、釜山旅客ターミナル近くには、現在でも日本風家屋が残っており、他の都市に比べて、日本語が語源となっている韓国語も通じる。例えば、私の留学時代には、「イカ」「サシミ」「ツメキリ」「タマリ(電球)」などの日常用語は、韓国語よりも日本語の方が頻繁に使用されていたような気がする。また、建設業にいる知人たちも専門用語の多くに日本語の名残があると教えてくれたし、ビリヤードをやっているときには「ヒキリ(引き)」などの用語が使用された。

また、日本に一番近い港湾都市釜山には、日本から多くの商品が集まる。最近ではめっきり減った

が、つい数年前までは福岡―釜山間のフェリーに乗ると「担ぎ屋」の女性たちに荷物を持つように頼まれ、断るのに苦労したほどである。サイズと種類にもよるが、大体数千円で釜山福岡間を一日で運んでいたようである。

今後、釜山福岡間の物流の増加が期待されるのが、一台のトラックに日本と韓国の両方のナンバープレートをつけて両国の公道を走行することが出来る「ダブルナンバー制度」の導入である。二〇一二年より導入された同制度は、まず自動車部品の移動に利用された。具体的には、福岡県の日産自動車九州と提携先の釜山市ルノーサムソン自動車との間をダブルナンバーのトラックが往復し、荷物を積み替える手間と費用が節約できるようにになった。最近、釜山市の友人は、福岡ナンバーのみならず関東圏ナンバーの水産関係のトラックが走っているのを目撃したそうであるから、ダブルナンバー制度を利用した物流が多様化しているようである。

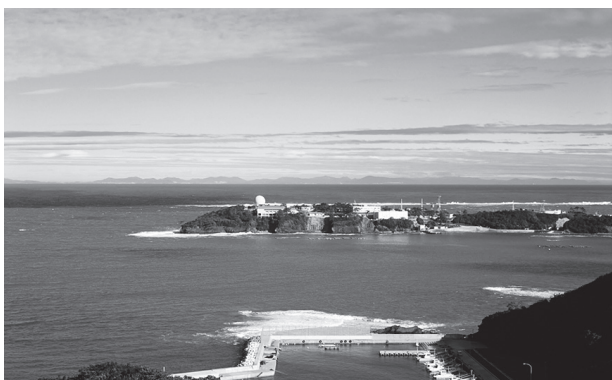
釜山港の新港湾建設とダブルナンバー制度の導入により、釜山市は、韓国における物流の中心地となり、特に日本との関係において



釜山港新港湾（提供：浅田隼平氏）



対馬からみた釜山花火大会（提供：須川英之氏（対馬市））



対馬からみた釜山市（提供：須川英之氏（対馬市））

は、窓口としての役割をより一層担うことになるものと予想される。

●対馬からみた釜山市

そもそも時代をさかのぼれば、朝鮮通信使は釜山市から九州へと渡ってきており、釜山市が日本との交流の窓口としての役割を担うことは何もここ最近始まったことではない。そして、この歴史的実に注目してみると、釜山市から五〇キロほど先にある対馬の存在に気付く。天気がいいときには、釜山市の海雲台から対馬が肉眼でみえ、逆に対馬の韓国展望台から

は釜山市を眺めることができる。毎年一〇月に開催される約八万発の花火が打ち上げられる釜山花火大会の隠れたスポットとしても対馬が注目されつつある。

釜山市民にとっては、対馬は一番近い外国であると同時に、生活圏として認識している側面が大きい。釣りを楽しむ人は、船をチャーターして対馬での釣りを楽しんでおり、キャンプが流行したここ数年は、キャンプ地として対馬を選択する釜山市民もいるという。また、高速船を使った日帰りツアーも大勢の釜山市民に利用さ

れ、会社の研修で対馬を利用する釜山の企業もある。筆者が、二〇一三年九月に釜山港発の対馬日帰りツアーに参加したときには、済州島などの韓国国内観光地よりも近くて安い対馬を訪れる釜山市民が多数いた。

●福岡―対馬―釜山

以上のように、今後、日本から釜山市について考えるとき、韓国内での釜山市の機能のみならず、日本との窓口に位置するという点に注目する必要があるだろう。釜山市は、韓国国内における「第二

の都市」「港湾都市」「映画の街」という観点のみならず、「日本との窓口」「国際物流拠点」さらには、世界各地で進められている「国境観光」という可能性が秘められている都市でもある。実際、前述した釜山市民の対馬観光のみならず、日本を出発点とした福岡―対馬―釜山の国境観光プロジェクトが進められている。

二〇一五年三月には、同行程で第二回ツアーが実施され、福岡―対馬―釜山国境観光ツアーが引き金となり、「稚内―サハリン」「八重山―台湾」などの国境観光ツアーも企画される予定である。このような点からも、「国境の街・釜山」が注目されるところである。

（きむら たかし／九州国際大学
法学部准教授）

《参考文献》

- ①釜山広域市HP
- ②釜山国際映画祭HP
- ③釜山港湾公社HP
- ④岩下明裕・花松泰倫編著『国境の島・対馬の観光を創る』北海道大学出版会、二〇一四年。